

これからの AAJPS

この度は4人の理事と正会員、支援会員合わせて9人の一斉退会という危機に直面しました。理事を続けるに当たっての抱負にも書きましたが、退会理由としていくつか問題点が指摘されていますが、これまで活動の中で議論し、問題を乗り越えていく場を求めなかったことを残念に思います。

とは言え2017年の発足以降初めて体験する大きな変化に直面しているのは確かです。メンバー全員の高齢化という条件を背負っているうえ、一斉退会によって公害グループや北海道101作業グループの担い手がいなくなりました。また活動の源としている会費収入の減少も避けられません。

一方、この間の活動によってホームページは研究者論文の参考文献として散見されるようになり、広島・基町や足尾・谷中・サロマベツなどの活動報告展では50年前の写真が現地で活動しておられる方々の心に通底する力を持つことを経験として受け止めました。IT文明が急速に進展する世の中であって生でオリジナルな存在としての全日・四九一の写真群は貴重な存在として認知され始めています。AAJPSが目指そうとする地平は少しずつ姿を現しつつあるのです。

新理事会では、写真や資料のスキャンデータと目録、原資料がどこにどのように置かれているかを正確に把握保全し、ご支援いただけるメンバーの発掘増強にも取り組んで確実に前進できる「リスタート」を申し合わせました。

最後に『状況1965』の福島先生の文章を引用します。

もし私たちが、この巨大な組織体系にぶらさがるコウモリの安逸からのがれようとするならば、いくら現状に対して批判的でありえたとしても、そんなことでは現状は少しも変わらない。(略)写真の方法を考えるにしても、サークルの組織、運営を行なうにしても、すべて具体から具体へと進まない思考は、現実のまえで無力なのである。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年8月23日

代表理事 福崎 進

全日に関する論文

全日本学生写真連盟の活動と写真について今、色々な論文が出されています。AAJPSのホームページの写真や資料を参考に書かれていて、ホームページが研究者の中で確実に浸透している手応えを感じます。

◎「運動」としての写真——〈全日本学生写真連盟〉と「集団撮影行動」美術フォーラム 21Vol.47 特集「フォトグラフィック・アート——技術と芸術のあいだ」

竹葉 丈 (元名古屋市美術館学芸員)

◎「新たなリアリズム写真運動」としての全日本学生写真連盟——「集撮」の思想と『この地上にわれわれの国はない』

田尻 歩 (東京理科大学教養教育研究院 葛飾キャンパス教養部 講師)

<https://researchmap.jp/AyumuTajiri>

ホームページ上で閲覧可能

◎ Gendering Cultures of Japanese Photography, 1931-1970

マコーミック・ケリー (現在はブリティッシュコロンビア大学の歴史部で日本史の講師)

原文はネットで読むことができます。続編も執筆中。

*第5章(190頁から)は実践女子大学の写真集「Ashio 1969-1971」と全日本学生写真連盟の写真について。



AAJPS ホームページ
<https://aajps.or.jp>

デジタルデータの仕様再確認

各チームでの写真のデジタル化はかなり進んできました。今からはデジタル化の作業と並行にデータベース化への準備も始めなければならず、まずは目録を整理し、撮影企画・撮影日時・撮影場所・撮影内容を確定していかなければなりません。目下それらの作業を精力的に進めています。

また収集されたネガ・プリントを使つての展示活動も進行し、多方面との交流も広がり、残された全日の活動の意味を確かな事にしつつあります。

さて、それらの作業の中で以前確認したにもかかわらず企画に合わない例も散見します。再度確認をしたいと思います。

プリントの場合(絵柄に対して)

仕上りのデータは

300dpiでA3(420mm×297mm)程度

ネガの場合

長辺 4,950ドット 短辺 3,300ドット 基準

長辺 3,300ドット 短辺 2,200ドット 以上

大妻女子大学写真部集団撮影 写真集「立川」 近日刊行



頒布価格：1,200 円
連絡先：阿部 静子

Email:tachikawa68noto@gmail.com

1967年、大妻女子大学写真部は全日本学生写真連盟（以降、全日と略す）に参加し、新たな方向性を模索しながら活動を重ねた時期でした。また社会的には学生運動、砂川闘争（立川基地拡張反対）、北富士演習場反対闘争、三里塚空港反対闘争、ベトナム反戦闘争と権力への抵抗が噴き出した時代でした。

当時の私達の活動は、全日で開催される写真例会や、王子野戦病院反対闘争への参加、それに「忍草母の会」との出会いが加わり、時代の空気と相まって、私達に大きな意識変革をもたらしました。それらは同時に現実社会の中で自立し、どう行動していくのかという問題提起でもあったのです。

1968年全日で集団撮影行動が始まり、大妻写真部として「立川」を設定しました。立川は当時、米軍による基地拡張に反対する砂川闘争を14年間闘い続けている地域であると同時に、高度経済成長による都市近郊の開発地域でもありました。その撮影地は「立川市内、周辺、工場、砂川、福生」に及びました。私達はそこで息づいている人々を身体で感じ、確かなものを掴み取ってはいましたが、形を成さないまま活動は終わりました。50年後の今、私達は再度写真に向き合うことになりました。写真を一枚一枚見ていく中で、その時に感じた手応えが甦ってきたのです。その感じた「立川」を時代のひとつの痕跡として写真集という形に据えることにしました。

'65～'79までの全日・491のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持ちのネガや資料の情報をお知らせください。

お問い合わせ等：277-0053 柏市酒井根 2-20-11 東 闊 hig811@gmail.com